

川崎市在住 今年度ワクチン接種最終対象者

「高校生女子と 16～27 歳 (ワクチン対象年齢)」の皆さんへ

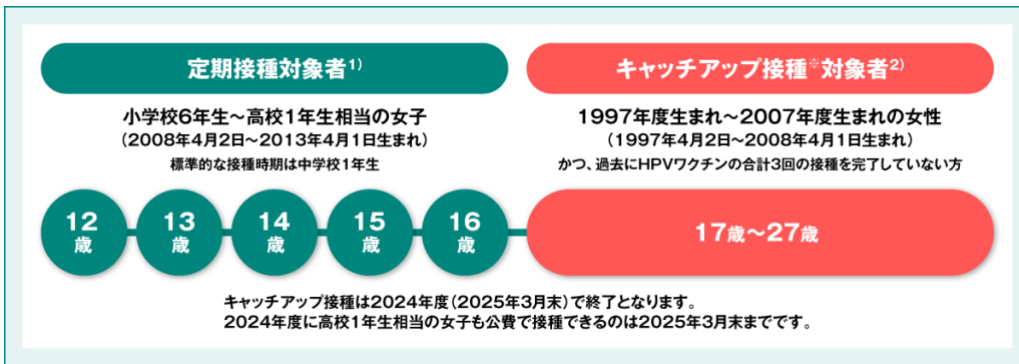
『HPV ワクチン』 公費接種期限が迫っています！ (子宮頸がん)

ワクチンが公費(無料)で接種できるのは 2025 年 3 月末まで。

初回接種は9月までが期限です！



接種は全3回
終了まで半年間
必要です。



最終期限は高2、3含むキャッチアップだけではありません。
高校1年生も定期接種の最終期限です。高校生のみなさんはご注意ください。



「定期接種やキャッチアップのお知らせ」 迷ったまま自宅に放っておいていませんか？

HPV ウイルスは誰にでも感染しうるウイルスです。無料公費接種の最後の機会に「子宮頸がん」について理解し、後で後悔のないように、接種する、しないを自分の意思で決定することが大切です。

「HPV ヒトパピローマウイルスとは」(裏面)

【ワクチン接種・相談のご予約】

麻生総合病院 予約センター 9:00～17:00
044-987-3293 (予約専用)

「ワクチン相談 ¥1,650(税込)」

不安をもつご本人や保護者の方へわかりやすくお話しします。接種についてご自身の意思で決定できるようサポートをいたします。

公費無料接種期間が過ぎた場合

「9価ワクチン」
1回 ¥27,500(税込)
「2価・4価ワクチン」
1回 ¥17,600(税込)

3回接種の総額が10万円近くかかる、大変高額なワクチンです。

※男性の任意接種も可能です。
(当院では中学生男子以上)
男性の場合のワクチンは
「2価・4価ワクチン」となります。



医療法人社団 総生会 麻生総合病院 女性診療科(婦人科) 毎週火曜・木曜
〒215-0021 川崎市麻生区上麻生6-25-1 044-987-2522(代表)

※7月～9月は婦人科診療日以外の土曜日の接種日も予定しています。(決まり次第 HP 等でお知らせします。)



子宮頸がんウイルス＝HPV(ヒトパピローマウイルス)とは？

HPV(ヒトパピローマウイルス)は、100種類以上ある身の回りに存在するありふれたウイルスです。

その中でも子宮頸がんを引き起こすことがある約13種類を『ハイリスクHPV』といいます。

身近に存在するウイルスのために、性交渉の経験があればほとんどの人が生涯のうちに1度は感染するといわれています。



ただし、感染＝がん発症ではありません。大抵の場合、ウイルスは自身の免疫で不活性化されます。しかし、一部の女性は不活化されずにウイルスの活動が持続すると、「子宮頸部異形成」と呼ばれる状態へ移行します。

異形成が進行していくと子宮頸がんを発症、治療のため妊娠前に子宮を失ったり、命を落とすことになります。(日本人女性の20～30代のがん 第1位は「子宮頸がん」です。)

このようにウイルスに感染することは誰にとってもありうるため、がんにまで進行することは稀でも、「異形成」が見つかり通院になることはめずらしくありません。この場合、異形成が自然治癒するまで数か月おきに定期的な検査が必要になります。

しかし考え方を変えると、

- ◆ がんに至るまでの前がん段階(「異形成」)があるため、定期的な検診によって早期発見しやすい。
- ◆ 子宮頸がん予防につながるワクチンが存在する。

このようなことから「子宮頸がん」は 世界から撲滅できるがんと期待されています。

(世界での接種率や子宮頸がんやワクチンの副反応やリスクに関する詳細はこちら→)

わが国では定期接種が中止となったワクチンですが、様々な調査から安全性が確認され再開されています。HPV ワクチン自体は2006年より欧米で接種が開始され、対象者の80%以上の接種が進んでいる国もあります。今日まで安全性を確認されながら多く国で接種が行われています。

HPV(ヒトパピローマウイルス)の影響を受けるのは男性も同じです。

男性の場合、陰茎がんや肛門がんの原因となることがわかっています。

さらに、HPV はがん以外にも外陰部に疣贅(いぼ)を多発させる「尖圭コンジローマ」は男女問わず引き起こします。

このため、日本以外の多くの国では女子のみならず男子も接種しています。

(令和6年4月より東京都の多くの区で男子任意接種が開始されています)
(男性場合、承認のある2価/4価 HPV ワクチン ¥17,600/回になります)

現在、ほとんどの方が選択される9価ワクチンは、7種類の子宮頸がん HPV+2種類の尖圭コンジローマ HPV に対するワクチンです。

(男性の4価ワクチンは、2種類の子宮頸がん HPV+2種類の尖圭コンジローマ HPV に対するワクチンです。)

ワクチンは、年齢が低いほど免疫抗体反応が良く、また、性交渉を経験する前に接種する目的で15歳前後が推奨されています。

多感な年齢の接種で不安があったり、迷うことも当然のため、婦人科外来ではワクチン相談をお受けしています。

(接種を強く勧めたりすることはありません。中高生でも十分考えることができる年齢です。親子で一緒に考えて決めるサポートをします。)キャッチアップ世代の方は、すでに性交渉で一部のウイルスの感染があっても、9種すべてに感染していることは稀です。今からでも接種の意義は高いと考えられていますので、希望される方はぜひこの機会の接種をご検討ください。

文責 麻生総合病院 女性診療科(婦人科) 日本産科婦人科学会専門医 菅 裕佳子

厚生労働省提供資料
「HPV ワクチンについて知ってください」

